

## 令和6年度 第1回かながわコミュニティカレッジ運営委員会 会議録

○開催日時：令和6年8月1日（木）10時00分～12時00分

○開催場所：かながわコミュニティカレッジ講義室1（かながわ県民センター11階）

### ○出席者

伊藤 真木子（青山学院大学コミュニティ人間科学部 教授）

加藤 直樹（（一社）神奈川県専修学校各種学校協会 常任理事）

加茂 圭子（公募委員）

坂田 美保子（（特非）湘南NPOサポートセンター理事長）

澤岡 詩野（東海大学健康学部健康マネジメント学科 准教授）

志田 淳一（（社福）神奈川県社会福祉協議会地域福祉部 地域課 課長）

為崎 緑（中小企業診断士）

鶴山 芳子（（公財）さわやか福祉財団 常務理事 共生社会推進リーダー）

### ○議題

- 1 令和6年度かながわコミュニティカレッジ運営委員会の進め方について
- 2 令和5年度かながわコミュニティカレッジ講座実施結果について
- 3 令和6年度かながわコミュニティカレッジ講座実施状況（中間報告）結果について
- 4 令和7年度かながわコミュニティカレッジ講座編成の考え方について

### ○議事内容

#### 議題1「令和6年度かながわコミュニティカレッジ運営委員会の進め方について」

（県事務局より資料1に基づき説明）

#### 加茂委員

公募委員については、なかなか応募が集まりにくいという話がどこの市町村の事業にもあります。そういった中でコミュニティカレッジにご興味を持っていただき、公募委員に応募していただくためには市民活動をやられている方への周知が必要だと思います。難しいかもしれませんが、コミュニティカレッジの講座を開いている傍に張り紙などが効果的なのではないかと思います。どうでしょうか。

## 県事務局

公募委員の募集 PR につきましては、ご意見を取り入れて興味のある方のところへ配架させていただくようにいたします。

## 加茂委員

付け足して良いでしょうか。私はホームページから申し込みましたが、神奈川県のお募委員募集のホームページでは応募条件や募集期間などが分かりにくく、工夫が必要ではないかと思ひます。公募委員は市民活動の担い手と同様に開拓していかなければならないと思ひます。せつかくソーシャルコーディネートかながわさんがいろいろ改革して下さっているのて、新しい形での開拓をお願いします。

## 県事務局

工夫をさせていただきます。

## 伊藤座長

他にいかかがですか。例年通りのスケジュールという理解でよろしいでしょうか。それでは、事務局にはこのスケジュール案に基づき進めていただきたいと思ひます。

## 議題2 令和5年度かながわコミュニティカレッジ講座実施結果について

(県事務局より資料2-1、2-2に基づき説明)

## 為崎委員

受託事業者さんにお聞きします。今回、障がいのある受講者への配慮ということで手話通訳が入られ、毎回ライブ配信されたそうですが、実際受講された方の満足度や成果を把握されておられれば、お聞かせいただきたいです。もう一点、オンラインセミナーについては会場での視聴も可能となっていますが、受講者のほとんどがオンライン受講となっていることから考えると、講座を受講される方はもうご自身のオンライン講座受講の環境や知識が整っているというように考えてよろしいのでしょうか。以上、2点よろしくお願ひいたします。

## 受託事業者

手話通訳については、手話通訳を受けて実際に対面で講座を実施しており、傾聴講座は全部で4回ありましたが、2名の手話通訳の方に入っただき、対面で座って講師の話を手話通訳していただきました。傾聴講座ではグループワークもあり、手話通訳の方もグループに入っただき、健常者の方と一緒にグループワークをするということができましたため、非常に感謝され、満足されたと思ひます。NPOのオンラインの件につきましては、講義

室に手話通訳の方2名に来ていただき、オンラインで手話通訳の希望の方に聞いていただくということで、初めてのケースでしたが、手話通訳さんが10分から15分くらいで交代するため、こちらでは映像を撮りまして講座を実施しました。事前に、手話通訳の方と障がいのある方で言葉について、専門用語等があった場合については、こういうかたちで手話をやりますという打ち合わせをする時間はございましたので、スムーズに運営できたのではと思います。もう一点目の防災セミナーの会場視聴についてですが、当時やり始めた時にはコロナ禍ということから、オンラインが急に普及したという経緯があります。その頃はまだ慣れていない方がいらっしやったのですが、ここ3年ほど経ちますと、皆様オンラインの手順など慣れていらっしやる印象です。昨年度は会場視聴が3名いらっしやいましたが、当初はZoomのやり方について最初に説明を行い、音声聞こえるか、映像が見えるかなどを行っていましたが、この時には問題はありませんでした。会場を受講希望の方がいらっしやればお受けしますということで環境的には進んでいたかなと思います。

#### **為崎委員**

ありがとうございました。聴覚障がいのある方も講座に参加できるのはとてもいい環境だと思っております。私自身もそういった講座に出たことがあるのですが、健全な受講者と障がいのある受講者の方のコミュニケーションが図れたことや、受講者の方達の手話への理解が進んだといった成果もあり、今後そのようなことが進んでいけばいいなと思いました。今回参加された方からの口コミで、誰もがこのような講座に参加できるというというような周知も広がっていくと良いと思いました。ありがとうございます。

#### **澤岡委員**

丁寧なご説明どうもありがとうございます。私の質問といたしましては、受講生インタビューの実施とありますが、記事をすべて拝見できていないのですが6名というのは、どういった感じでセレクションされたのか、まんべんなくいろいろなニーズに応じて6名の方を選んだと思うのですが、どんな選定基準、どんなことをお伝えしたくてこの6名を選ばれたのか教えていただければと思います

#### **受託事業者**

ご質問ありがとうございます。こちらの6名につきましては、講座をやっている段階で受講されている方にご自身の活動や、講座の終了時に取り組もうとしていることなどを事務局でヒアリングしている中で声をかけております。また、講座実施団体の方にも何か講座を受けて活動がつながっている方がいれば、推薦をいただき、インタビューを行っています。例えば、災害ボランティア入門講座では、この講座の後に秋田の方にボランティアバスに参加された女性の方なのですけれども、ご案内を送って2日後ぐらいに出発のスケジュールだったのですが、ぜひ行きたいということで実際にそこに参加されて、その話については

ひインタビューさせていただきたく、そのような方をピックアップさせていただいております。あとは、講座に応じた形で地域活動に進んでいらっしゃる方の生の声を聴きたいということで選ばせていただきました。

#### **澤岡委員**

ありがとうございます。やはり、受講の動機やその後の活動に係るエピソードが伝わることはとても受講を促すきっかけになると思って伺いました。以前にどこかでお話しさせていただきましたが、障がいを持っている方々にも、共に学ぶ場として来てくださいということ伝える意味でも、障がいを持っている方にインタビューにお答えいただくということも1つだと思います。その方にご協力いただけないようでしたら、周囲の受講生の方が障がいを持っている方とグループワークを行って、新たな気づきがあったというようなこととお話しただけると、コミカレの懐の深さといえますか、学びの場としての多様性といったところもお伝えできるのかなと思います。もし、また新たにインタビューを加えるようでしたら、そのようなところも考慮いただけたらと思います。

#### **加藤委員**

障がい者の受講ということで、手話のお話が出ていましたが、その他の障がい者というのは、手足が不自由な方など、そのような方に対して例はあるのでしょうか。ありましたら、教えてください。

#### **受託事業者**

昨年度はあまり多くおられなかったのですが、車いすの方は通常通り来られます。今までの例でいうと、視覚障害の方と一緒にまち歩きをし、視覚障がいの方の外出をどう支援するかを学ぶ講座があり、そのような方が来られたこともございます。

また、聴覚障がいの方については手話通訳を、視覚障がいの方については音声で講座を聞くというようなこともございました。

なお、車いすの方は、入り口の近くに座っていただいたり、過去にいらしゃった盲導犬を連れてこられた方についても、座席について、他の受講生にも配慮するなど工夫をしています。

#### **加藤委員**

ありがとうございます。そのようなご配慮を頂いていろいろな講座を受講できるということは本当に良いことだと思います。今後もよろしくお願いします。

#### **坂田委員**

ありがとうございます。継続して運営していただき、着実に講座を進めてくださったり、

運営委員会の意見も反映して新たな取り組みを進めていただいている様子がわかり、とても素晴らしいと思って伺っておりますが、これだけ継続していくことは大変なことだと思うのですが、これからに向けて今までやってきた中で、ここが大変だと思うこと、もっとこうしたいと思うことがあれば教えてください。

### 受託事業者

先ほど、資料2-2の説明の時にあったかと思うのですが、県民のニーズをどう拾うかということでしょうか。傾聴講座は需要が高いと思います。傾聴講座に来られる受講生も、前向きな方が多く、講座の雰囲気や和んでいると伺いますか、1回目から雰囲気がほかの講座と違うなというところがあり、ただそれ以外にもいろいろなボランティアのニーズ、市民活動のニーズがあるので、そういったものをいかに拾って、そこにきちんと受講生を集める。傾聴のようにたくさん集まる講座もあれば、なかなか集めづらい講座もあって、でもそれぞれニーズがあるものなので、ニーズの拾い上げとやりたいという方に情報が届くようにするといったことは難しいと感じております。

### 坂田委員

ありがとうございます。みんなで何か協力できることがあれば知りたいと思います。

### 志田委員

1点質問させていただきたいと思います。資料2-1の2枚目についてですが、番号4と5番の回想法リーダー養成研修で、会場とオンラインの2つの方法を取り入れられています。今回が初めてではなかったと思いますが、コロナ禍が開けてオンラインも開催方法の1つになったかと思えます。一方で、集まることで得られるネットワークなどの会場の強みや、スキマ時間でどこからでも参加しやすいオンラインというものもあったりすると思えます。また、同じようなプログラムを市町村域でもやっていたと記憶しておりまして、そういった開催の方法や開催地の違いやコミカレで会場、オンラインでやることの強みみたいなもの、アンケートの結果を見るといずれも高い満足度を得られていると思うのですが、コミカレとして開催する上での強みのようなものをどう整理されていらっしゃるか、お聞かせいただければありがたいと思ひまして、質問させていただきました。

### 受託事業者

回想法に関しましては、同じ講義については同じカリキュラムを対面とオンラインの方が聞いていらっしゃると思います。講座内でワークがあるのですが、ワークに関しましては会場受講の方とオンライン受講の方で、もの（当時の回想を促すための生活用品等）があるかないで異なるため、ワークだけ分離しているという形になっております。講義を会場とオンラインの人が聞いて、通常の講義後半のワークに関しては会場の人のみで、オンラインの方でワ

ークを受けられない方だけ、最後の5回目に開催するという方法をとっております。こちらの団体は、非常にオンライン講座に慣れている団体でいろいろ経験を積んでいるところもあり、そこはスムーズなのですが、事務局のほうでもハイブリットになるとバックアップをしないといけないような形です。ただ、今回オンライン講座の人も受講後に自主グループ、団体がフォローアップをしております、オンライン講座の方も月に1回くらい回想法の自主グループがあります。オンラインで受けた方もその自主グループに入られて、今対面で一緒に活動をされていると伺っているので、オンライン講座と対面講座の人が交流するという部分につきましては、スムーズにいつているのではないかと思います。また、コミュニティカレッジの強みとして関係性を作るつながりという部分に関しては、どうしてもオンラインで出来づらいつという部分があるため、何か別の方法は考えないと考えております。ですが、対面で非常にワークが多いことや、隣同士で話してください、4人でグループになって話してください、一緒に何かを考えてくださいというところで、つながりを持っている講座が多いため、コミカレの強みというと対面講座で実施していくということかと思ついます。オンラインについては、試行錯誤して方法を生み出していく必要があるかと感じております。

#### **志田委員**

ありがとうございます。私どもが主催する研修などでも似たような悩みや模索をしながらやっているものですから、参考にさせていただきたいと思ついます。また適宜、情報交換できればと思ついます。

#### **議題3 令和5年度かながわコミュニティカレッジ講座実施状況（中間報告）について**

（受託者より資料3-1、3-2に基づき説明）

#### **加茂委員**

横須賀市が受講料の奨励金をやられているということなのですが、他市でスタートアップされたいという団体さんにお会いしました。その団体さんはこちらのコミュニティカレッジの聞き書きの講座を受けられて、実際にスタートアップ、市民活動を始められたという方にお会いすることができたということです。

市民活動の担い手を増やすということが私の大命題なのですが、市民活動の担い手をまさに増やしていて、かつ、その方が団体を立ち上げて、その後、いろいろな宣伝に出てくるというところまで成長されているということで、これこそが市民活動の始まりの理想形ではないと思つまして、お伝えしたいということです。

#### **為崎委員**

まだ始まったばかりだと思つのですが、今年度は当初からコロナ感染防止の制約がなく、

一方で酷暑ということもあって、何か今年度の応募状況や参加状況で例年と違うようなことがあれば教えてください。

### **受託事業者**

参加状況につきましては、7月当初はそうでもなかったのですが、中旬以降に発熱やコロナになってしまったという方が少し増えてきた感じがございます。講座によっては5人くらい欠席になってしまうということもあり、少し出席率はそのような部分に影響があると思っております。事務局としては、念のため消毒液を使いたい方は使ってくださいと案内することと、休憩中に換気をしております。あとは、暑さが原因かどうかわかりませんが、少し応募状況が落ち着いているという感触がございます。コロナが開けて、いよいよというときにこの猛暑やコロナなどのいろいろな病気が出ているせいもあるのか、例年なら県のたよりが出た時に傾聴講座など一気に申込みあったのですが、徐々に増えていくという感触で一気に増えず、少しそのあたりが気になるところでございます。

### **為崎委員**

気を付けて講座を進めていただきたいと思います。ありがとうございます。

### **加茂委員**

防災についてですが、以前、石川県の能登のボランティアに行った際に、そこにユナイテッドかながわという県内で活動されている団体さんがいらっしゃいました。子ども食堂といえば子ども食堂ネットワークがあるように、防災であれば防災にもネットワークがあると思います。

いろいろな人がいろいろなボランティアをしたいと思っていると思うのですが、講座の中でそういったところのご紹介をしていただけると、今回の能登半島地震ボランティアへの参加についても、もう少し障壁が低くなったのかなと思っております。

### **受託事業者**

私どもも、受講生の方にいろいろな情報を提供したいと考えておまして、今回私どもの提案で入れさせていただいた、基金 21 事業で助成金を受けて活動されている団体に対して、アンケートを取らせていただこうと思っております。それは、ボランティアの募集であったり、もしくはスタッフの募集であったり、こういったことの情報提供をしたい、というものをお寄せいただき、それを受講生であったりメルマガに登録されている方に流せるようなものをやりたいと思っておりますので、子ども食堂ネットワークやそういったところでいろいろ広がりすぎると難しい部分もあるのかもしれないのですけれども、有益な情報についてはご紹介をしていきたいと思っており、検討したいと思っております。

## 伊藤座長

ありがとうございます。坂田委員お願いします。

## 坂田委員

2点ほど教えていただきたいことがございます。連携講座の番号1番2番の外国につながる子どもの学習ボランティア講座が終了されていらっしゃると思うのですが、どのような方が受講されているのか、年齢や性別、それから背景がもし分かれば教えていただければと思います。

実は私どもの町の団体さんから学習ボランティアを探す術を知りたいという声がありましたので、お伺いしたいと思います。

それと、もう1つは澤岡委員がご講演された講義の中で、体験談を2名の方がお話されたことは、これは受講されている方もとても自分事になる体験談ではなかったかと思うのですが、どのようなお話を具体的にされたのか伺いたいと思ひまして、よろしくお願ひいたします。

## 受託事業者

ありがとうございます。外国につながる子どもの学習ボランティア入門講座に関しましてはやはり男性の方もいらっしゃいますけれど、女性の方が6対4、7対3くらいのような感じでしょうか。こちらは子どもへの学習ボランティアということで、少し海外経験がある方や、それから、海外に住んでいらっしゃった方、身近に外国の子どもがいらっしゃる方ということで、ご参加されていらっしゃいます。午後に、学習支援者のブラッシュアップ講座というのが開催されているのですが、ここはどちらかというと専門的な方が多いです。学校の先生や地域ですでに子どもたち向けの学習をやっていらっしゃる方など、その中でもう少し教え方を学びたいという方がいらっしゃるの、専門的な方が学んでいる形です。女性の方が多く、男性の方も2割はいらっしゃるかなと思います。講座の内容はしっかりしていて、いろいろな外国の言葉を題材にして丁寧に教えていただいている講座で、講師の方も学校の先生が多いため、そう言ったところでは、特に神奈川であると特にニーズはあるのかなと思います。

特別講座、オンラインセミナーの話をしていただきましたが、1名の方は4つくらい講座を受けていらっしゃる女性の方なのですが、コミュニティカレッジの場所をサードプレイスとっていただいた方です。講座の中の発表、グループ発表の時に、やはりサードプレイスという場所が活動していく上では必要ということで、その中で緩やかな人間関係ができて、つながりができたというところを発表されていて、この方に話をしてもらおうと思って選ばせていただいています。もう1人の方は、防災教育ファシリテーター養成講座を受けられた方です。上級編も受けられており、マンションの自治会防災担当をしている方で、大

人というよりは子どもに防災をちゃんと伝えてそこから伝えていきたいという思いもあって、この講座に参加されていました。実際に子どもたちが集まる場所でこの防災教育の話をしたのだけれど、全然子どもがそっぽを向いていて、話を聞いてくれなかった、そういうエピソードを入れていただきながら、今後、子どもたちに対して防災教育を自分の地域、学校等にやっていきたいという話をさせていただきました。そのような2名にお話しさせていただきました。

### 坂田委員

説明ありがとうございます。外国につながる子どもの学習ボランティアは、やはり背景にそういった関心のある方いらっしゃるというのが、とてもよくわかりました。それから、お二人の体験談も非常に私も聞いてみたかったなと思いました。サードプレイスと言ってもらえるのは、運営側にとっても嬉しいのではないかと思います。

### 澤岡委員

今のお二人のお話しに関してですが、私も実際に生で聞かせていただいて、ちょっと印象深かったことをもう少し付け加えます。

最初に出てこられた方は子育てにすごく追われている毎日を今過ごされている方です。日々生活に追われる中で自分のこれからってどうなるのだろうって、いろいろな危機意識をもって学びの場に出てこられた方で、こんなに汗をかいて、もう毎日脇汗が止まらなかったっておっしゃっていました。それくらい、いろいろ考えて、考えてそれがすごく楽しかったっておっしゃっていて、それがすごく楽しくてまた新しいことをどんどん学びたいって思ったってということが、ある意味、今でいうリスキングみたいなことにつながるのかなとおっしゃっていたことがとても印象深かったです。

それから、お二人については、事前にいろいろと言いたい内容を調整してくださっていたということもあるのですが、やはり1人で学ぶことということも今の時代出来る中で、このような場に出てきて、同じような思いや関心を持つ人たちと学ぶ意味みたいなことをお二人とも共通しておっしゃっていました。

やはり、同じような思いを持つ、いろんな背景を持つ人とここで学んだことが新しい視点を得ることができる、同じものを見て、同じ風に街を歩いても、寄せ集めるといろんな広がりがあったみたいなお話もあったりします。

防災のことをやっていらっしゃる男性お二人も学んだ方々と今、ネットワークをもって自分の地域とか自分の団体の中だけにいるだけでなく、広いつながりの中で話ができ、今もそのつながりの中で未だに時々情報交換をしているということです。これは自分が活動を続けていくうえでもとても重要な財産になるということも教えてくださっていて、きれいにまとめすぎているとは思いますが、お二人のお話がとても中身が濃く、短いお時間でしたが、結構引き付けられていたように思います。なので、これも、もしかしたらインタビュー

一の6事例が載せられているとおっしゃっていたのですが、このお二人についてもうまくこの前回の講座の時に聞き取られたことをうまくまとめて、お二人の了承が得られればホームページに載せられればいいのかと思うくらい素敵でした。

#### **坂田委員**

ありがとうございます、今、いろいろな課題に対して他人事を感じる方が多い中で、受講生の生の声は自分事として考えることができるように思います。コロナが再び蔓延していますけれども、リアルにコミュニケーションが取れる状態になってきたので、このような触れ合いがもっと増えていくといいな、と思いました。

#### **伊藤座長**

私も一点だけ、資料の3-2の3番のその他報告事項、所見(1)で2月の第1次審査で審査委員からの意見を踏まえて対応して下さったということで、この短時間で本当に素晴らしいなと思ったのですが、1点目について、これはどういう意見に対してのどのような対応ととらえたら良いでしょうか。

#### **県事務局**

毎年好評をいただいているかながわコミュニティカレッジですが、割とレギュラーな科目が多いということで、このシニアライフアドバイザーにつきましては、新たな要素を取り入れた、新しい講座実施団体による、新しい講座ということで新しいカリキュラムを取り組んでいるところを紹介するために、ピックアップして紹介しているということでございます。

#### **伊藤座長**

新しい講座実施団体ですか。

#### **県事務局**

去年相談に来て実際に開講にこぎつけた団体でございます。

#### **伊藤座長**

ありがとうございます。少し時間も迫ってまいりましたのでこちらで終了させていただきたいと思います。受託者は今で委員の方の意見、コメント等踏まえて事業を進めていただければと思います。

#### **議題4 令和7年度かながわコミュニティカレッジ講座編成の考え方について**

(県事務局より資料4に基づき説明)

## 加茂委員

私に関わっているのは2—1子ども食堂が地域の活性化ということだと思っておりますけれども、ちょうど先週の土曜日にながわ子ども食堂ネットワークが、より多くの人にコミュニケーションをとって欲しいということで公開学食をやっていました。そこに行ってみるとびっくりされるかもしれないのですが、子ども食堂やられている方ってどういう人を想像されますか。恐らくですが、私よりちょっと上の年代の方を想像されるか、または私みたいに子育て真最中の方を予想されるのではないかなと思います。しかし、実際はかなり小さいお子さんを抱えてやり始めた人が出てきました。子ども食堂は普及しているとはまだ言えませんが、始まって10年、15年たっていると思うのですけれども、子ども食堂から地域コミュニティの活性化という題目でもしやるのであれば、県議会の傍聴に業者を入れて、託児を付けているはずですが、託児業者を入れて託児を付けてあげて欲しいです。結局は、担い手の発掘がすごく大事なので、担い手を増やそうというのであれば、絶対託児を付けてあげて欲しいと思います。次に、そういった子ども食堂やっている人って、ボランティアをやっているだけではなく、自分自身がお金を稼いでいかないと、ボランティアではなく利用者になってしまうので、働いている方を想定してあげて欲しいです。そうすると、いつ開講するべきかわかると思います。それは土曜日であったり日曜日であったりと思うのですよね。平日は保育園のお迎えがあるので、絶対無理です。というわけで、できれば土日の開講で託児付き。もちろん、やられている受託者に負担がかかるとうえで、それでも担い手を増やして欲しいため、そのように願っています。

もう1つは、先ほど申し上げたようにネットワークがないと、その後、受講した人が困ってしまうので、ネットワークの紹介をお願いします。

3点目で終わりにしますと、澤岡委員がおっしゃる通りなのですが、緩やかにやらないと何も始まりません。3人で集まって、3人で何か楽しいことやっていけばそれは市民活動の始まりなのですけれども、お願いですので、来た方にこうあって欲しいというのではなくて、緩やかに始めて欲しいというスタンスを忘れない講座の開催者であって欲しいと思っています。

## 伊藤座長

ありがとうございます。

## 為崎委員

今のご説明の中で、スライドの5ページで講座の具体例を示すとありまして、そのあと詳細なご説明があったのですが、実際に募集をかけるときにどこまでを募集要項の中に入れるのかという点をお聞きしたいと思います。設定理由や開講する講座の具体案というところもご説明いただいたのですが、こういうものも募集するときの要綱などそういったものに入ってくるのでしょうか。それとも、募集時には、あくまで講座の具体例というところで、

子ども食堂から地域コミュニティの活性化というテーマだけを掲載するという理解で良いですか。

#### **県事務局**

お示しするのは、講座実施団体 10 月の企画募集提案の時と運営の団体なのですが、タイトルだけではなくここに記載されている設定理由と具体案を示して、こういった提案を求めるところも記載する予定です。そのため、加茂委員からいただいた、働いている人に配慮した講座編成や、ビジネスをしながらという方に配慮するというのも、この具体案の条件として加えさせていただいて、皆さんにお示しできたらと思っております。

#### **為崎委員**

ちょっと疑問に思ったのが、どこまで誘導的であっていいのかという点です。講座の募集時に大きな分野・テーマは提示するにしても、その中で、応募者がそれぞれ独自にテーマにアプローチし、自由な発想で講座提案いただくということも大切ではないかと思えます。具体案までを入れてしまうと、それに沿った提案を求めていると、受け取られてしまう可能性があると思うのですが、そのあたりの誘導性と自由な発想での提案というバランスをどのように考えておられるのでしょうか。慎重に考える必要があるのかなと思いました。

#### **県事務局**

あくまで示させていただきますのは例示なので、このまま講座を組んでくださいということではないです。なので、このテーマからは派生したものであっても、提案があればそれをはねるものではないので、そこは柔軟に対応したいと思っております。また、それは具体的に講座企画の説明会をやった後に相談も受けますので、その中で個別に少しお話をさせていただければなと思えます。

#### **為崎委員**

わかりました。繰り返しになり申し訳ありませんが、例えば子ども食堂の実際に活動している団体が講師になると良いとか、いろいろな具体が書いてあるので、まさにそういう提案を求めるというメッセージ性を持ってしまうと思われれます。そのあたりを今後どう記載するか詰めていかれると思うのですが、あまり誘導的にならない方が良いかなと思えます。そのため、例として挙げるとか、例えばという表現であつたらいいのですが、実際に活動している団体が講師になると良いと断言してしまうと、それを求めているようなイメージを持たれてしまうので、そこは緩やかに、こんな方向性でという表現で工夫していただくのが良いなと感じました。以上です。

## 県事務局

ありがとうございます。実は今日、皆様からいろいろなご意見をいただきたいと思っております。今日いただいた意見を基に出来上がったものについては皆様に確認させていただきまますので、ぜひ今日はいろいろ意見をいただけたらと思います。

## 伊藤座長

少し整理した方がいいと思ったのですが、メインテーマは変えないということは、それではよろしいですか。では、今の議題で問われているところの1つでメインテーマは変えないということがあったかと思いますが、それはそれで良いということで進めていただければと思います。そのうえで、県として望ましいと考えている講座の例を示したいという提案です。そこについてはよろしいですか。今、示し方については懸念を示されたと思います。示すということ自体は大丈夫ですか。

## 為崎委員

その前段階のことを1つ確認させて下さい。講座の具体例を示すものを3つ挙げていただいているのですが、先ほど現受託事業者の方から県民ニーズをどうとらえていくかが、なかなか難しい課題というお話があったのですが、この1、2、3を具体例として挙げるとするのは、これらの分野は県民ニーズが高いであろうし、県としても進めたい分野という理解でよろしいでしょうか。どのような基準で3つの分野で具体例を挙げられたかを教えていただいでよろしいですか。

## 県事務局

去年のメインテーマをお話しした時も総合計画をまとめておりました、その課題認識があったと思うのですが、今回の冒頭でお話しました現状認識というところになってきます。その中で少子高齢化、国際化、予想不能な事態というようなことが書かれておりますので、この3つが相応しいのではないかと考えました。ただ、これがすべてを網羅しているとは思っておりませんので、このほかにも何かあればということになります。

## 澤岡委員

最初理解できなかったといいますか、勘違いしていたと思っていたのですが、あくまで講座の具体例で3つ挙げられているのは具体例であって、公募を出す際にお伝えしないといけないのは、令和7年度のコミカレの重点領域、一番取り組みたいテーマは1番と2番と5番であり、ここを県として強化していきたいということが一番お伝えしないといけないという理解であっていますか。この1番と2番と5番について、ここは重点であるため、こんな講座をやりたいですという提案の中には、必ず1番2番5番が網羅されているような提案にして欲しいです。例えば1番です5番だと例としては子ども食堂から地域コミュニテ



## 県事務局

そういうわけではないです。あくまで例示なので、新しい講座の提案を知っていただくためのきっかけづくりとして記載しています。

## 澤岡委員

では、3番足す5番という提案も同じようにフレッシュなアイデアを求めていますということですか。

## 県事務局

そもそも、8分野の考え方がそういう形で説明しておりますので、提案が複数にまたがる分野のものありますから、そういったものの新たな提案を求めるためのトリガーとして今回示したいと思っています。確かに、例示を必ずやらなきゃいけないという誤解を受ける可能性があるのですが、そこはきちんとあくまでも例であるというところの記載は工夫しないといけないと思っています。

## 為崎委員

今の澤岡委員の質問と、県事務局の回答を聞いていて、講座募集について受け手側がかなり勘違いする可能性を感じました。今の書き方であれば、この3分野は重要です、重点置きますよっていう風にとられると思います。多分、県がお考えになっていることと、発信の仕方に少し食い違いがあるので、このままであると県の考えと受け手側のとらえ方の間にかなり乖離が生じる可能性があるように感じます。今のような表現ではなく、「今の社会情勢をとらえるとこんなこともありますよね」といったような、あくまでも例示として発信していくのが良いのではないのでしょうか。そうでないと、これらの分野がとても重要で、こんな課題をこんな方法をやってくださいねというメッセージ性を持ってしまい、応募団体はそれらの要素を踏まえた講座で応募して、講座の運営受託事業者はそれらの要素を満たしている講座を選定するという風に流れてしまう可能性が考えられます。先程、澤岡委員からも、どちらにとらえれば良いのかといったご質問があったのですが、解釈に迷いが生じぬよう、あくまでも例として示すものだという点を明示した方が良いのではないかと思います。

## 県事務局

今、為崎委員がおっしゃってくださったとおりでと思います。今回、資料がとても大きな資料になってしまっていて、いかにもここがとても県が重要視しているみたいのように確かに見えてしまっています。今回の資料は今日、委員の皆様になぜこの3つだけが特出しされているのかということをご丁寧に説明するために、この3つについて細かくこういう課題があるというように県が考えているから、この3つが必要なのではないかと

皆様にご説明するために作った資料でございます。実際に団体に募集をかけるときには、為崎委員がおっしゃったように、単なる例示に過ぎないという見せ方で募集を掛けたいと思います。

## 鶴山委員

ありがとうございました。私は、そんなに違和感はなく、昨年度最後の委員会の意見を反映しご検討いただいた資料だと思い、ご説明はそのように受け止めておりました。ご指摘のあった見せ方というのは、ご検討いただくのがいいのかなと思って伺いました。方向は共有していただいている通りで、この方向でいきましょうという中で、最初の現状認識のところに書かれてありますように、人口減少がとても早く進んでいる地域が神奈川県内にも出ているといえます。都市部とそうでないところの違いも、どう反映するかというのは大変難しいと思いますが、いつか県の講座で示していけるといいと感じています。横浜とか川崎とは違う西部方面とかの小さい町もたくさんあると思います。県全体という特徴を生かす中でどのように示していくのがいいかというのは、問題提起ではありますが、感じたところです。来年度このような形でやってみようというは3つともいいのではないかと考えております。どうするか視点はいろいろあると思います。

例えば子ども食堂から地域コミュニティの活性化というのは子ども食堂をきっかけにということだと思いますが、書いてある中身のことを踏まえれば、子ども食堂ということを取り口に出した方がいろいろな人の提案につながってくるという考え方、一方で、地域食堂として子どもも含めてというように見せるという考え方もあります。先ほど加茂委員もおっしゃってくださったように、県内では子ども食堂のネットワークも活発に進んでと思います。そこも大事な点だと思います。どこに重点を置くかということは、それぞれ3つとももう一度詰めるといいかと思いました。

2-2のところ、外国人のところは各市町村の取り組みというところがとても大事になってくるところで、では県の役割はどうするかということでご検討いただいた内容なのかと認識しておりました。大事な役割ではないかと思っています。

2-3のところですが、応急期から復興期というすごく幅広いといえますか、どこに重点を置くかで講座の中身は変わってきますし、復興期は地域づくりになってくると考えられます。ここも幅広いところを想定して具体的にどうなるかなというのは教えていただきたいなと思いました。また、開講する講座の具体案というところで、災害というところは本当にいろいろな選択肢があると思います。コミカレ講座の全体の方向性の1つの方向である災害が起きたところの中間支援というところもあるのですが、もう一方で日常のご近所のつながりというところが、災害が起きた時に重要な役割を果たす大事なテーマであると思います。そのため、一つ、選択肢としてあると良いのではと思いました。

## 伊藤座長

ありがとうございます。県事務局から何かありますか。

## 県事務局

鶴山委員からフェーズの話があったと思います。いま、神奈川県では災害中間支援組織のみんなのネットかながわというというものがありまして、まさに応急期から復興期までというフェーズで、どのようなニーズがあってというところを想定した事業として訓練などを展開しておりますので、そのように実際に動いている方たちのからの提案があればそういう訓練と同期してやっていただけると、より実践に基づいた講座になるかなと考えております。

## 県事務局

私の方から事例として示させていただいた3つに加えて、今人口減少問題が神奈川県にとって重要ということでそういったものも加えて、募集をしたいなど。示し方は為崎委員や鶴山委員も言われているように、あまり誘導的にならないように、誤解を受けないような記載にするように工夫をして、次回皆さんにお諮りできればと思っています。

## 伊藤座長

どうでしょうか、示し方、考え方。私はまだもやもやしていて、タイムリーな内容を新たに示す、実施すべき講座として示すということではないということですか。

## 県事務局

例示ですね。

## 伊藤座長

1から8まですべての例があれば、特に何も意識せずにすべての分野についてのインスピレーションをもらえると思うのですが、今の見せ方だと1と2と5の3分野が突出されている感じがします。見せ方として、このままでいいのかどうか。極端なこと言えば、全部の分野について例示ができれば、それはそれでいいのかもしれないのですけれど。

## 県事務局

それも含めて、検討させていただきます。今回たまたま3つというのは、私どもで県の総合計画も新たに出来て、走り始めて、神奈川県課題においてボランティア活動で特に取り組んでもらいたいような部分を示したという、たまたま示したということです。例えば県で様々な行政分野があるのですけれども、土木や建設の分野というのはなかなかボランティア活動と親和性がなかったりするので、そういう部分等というのは今回コミカレの講座の

提案で特にやってくださいという分野はどうしてもなかなか出てこないのですけれども。一方で今申し上げた3つの分野というのは、やはりボランティア活動が盛んな分野でもありますので、この3つを上げさせていただいたのですけれども、変に誘導的になる、混乱するというのであれば、すべての分野について例示する方向で改めて検討してみようかなと思います。

### 伊藤座長

そしてまた全然違うこと言いますが、県の仕事ですから、行政として、県としてこれが大事だと思うことを示すというのもスタンスだとは思いますが。いつも8つの分野が恒常的に大事なわけけれども、特に昨今では県としてはこれをまず重点的に考えたいということで、1つとか2つとか3つくらい、今年を出してみるというのもそういうスタンスであると思います。

### 県事務局

私どもの今回の提案は、この3つ。今確かに人口減少の部分はあると思うのでこの4つというのが私たちの案ですけれども、今皆様の方で「いや、すべての分野にちゃんと出した方がいいのではないか」というご意見が多いようであれば、すべての分野に何か現状にいろいろと調整をし直して、出すというのもあるのですけれども、できれば私どもが今回示した3つプラス人口減少を例示として出させていただくというのが、一番私たちが案として出した内容ではあります。

### 為崎委員

たぶん、全分野で例示してしまうと、見る方に煩雑なものになると思うので、そこまではする必要はないのかなと思います。そのため、3つの分野の例示をする前提として、例えば県が総合計画で進めている分野を勘案するとこんなテーマや、こんな企画も考えられますという示し方もあるのではないのでしょうか。なぜこれらの分野で例示するのかという前提に少し触れていただいて、そのあとで具体例を入れるというように、あくまでも一例というレベルでお示しいただければ、よろしいのかなと思いました。それが1つと、もうひとつについても気になっているのは、講座テーマのマンネリ化傾向の裏側に、見落とされているニーズはないのかということです。潜在的にニーズはあるのだけれどもコミュニティカレッジの講座の応募としては上ってこない社会課題はないかと常に気になっているところです。それの発掘はとても難しいと思うのですが、講座の企画の募集をかけるときに、反応はないかもしれないですけれども、今まで取り上げられていない潜在的なニーズの課題に対応するようなものも歓迎しますといった文言や、そういうものを求めますといった呼びかけを入れるというのも一案でないのでしょうか。今、そうした講座の応募の該当分野については「8その他」になってしまっているのですが、もしかすると講座には取り上げられていないが、埋

もれている県民ニーズや、地域課題もあるかもしれないと考えたりします。反応はないかもしれない、ダメ元かもしれないけれども、いま満たされていないものについての提案を求めるといようなことを入れる必要もあるのかなというように感じました。

#### **伊藤座長**

今回の意見を踏まえて、提案募集の案を実際に団体に示すものを作成してくださるということで、その案を私たちは見られるのでしょうか。

#### **県事務局**

去年も第1回運営委員会が終わった後に皆様の意見を集約した Excel の表で、こういう表現にしますよというものを皆さんにお配りして最終的に合意したので、そのようなものでいったん整理していただいて、募集案内についてはまた表記を考えて改めて示させていただければと思います。

#### **伊藤座長**

あと少しの時間しかないのですが、意見があればどうぞ。

#### **加藤委員**

8項目については、すべて出すというのはどうかと思うのですが、総合計画、今所長からお話あったように、ページを4項目、それこそ我々がよく使う特定項目、特定課題っていうのですかね、そういう形で次年度こういう例示を示したいという話の持って行きかたというのは、どんなものなのでしょうか。特定課題はあっていいと思うのですけれどもね。その辺を踏まえてということをお願いできればありがたいと思います。

#### **伊藤座長**

澤岡委員お願いします。

#### **澤岡委員**

ありがとうございます。特定課題というのも見せ方としては1つありかなと思うのですが、今まで講座になったもの以外でこんなものがあるといいなっていう、「いいな」くらいの書き方が良いと思います。例えば子ども食堂のこの事例もすごく上のテーマ設定があるといいな、なので、別にこれに限定しているわけじゃないよ、あるといいなって書き方なので、2-1も子ども食堂から地域コミュニティの活性化に対する事業募集しますくらいのテーマ設定だと思います。また、もう少しエッジを立ててしまって、今までなかったものを、例えば子ども食堂を介した、子ども食堂がいろいろな課題解決の場になっているというものもあります。今、子どもの困窮家庭というだけではなくて、私の関わっているところだと、

子ども食堂は生活困窮の方よりもどちらかというと共働きで、お母さんがダッシュで帰ってきて子どものご飯作らないといけない、キーってなって、イラッとなっている状況で、あそこで6時からやっているからとりあえず、学童の帰りの子どもと待ち合わせして、そこでご飯2人で食べていけるとそれだけ子どもに優しくなれるみたいな、ある意味そういう子育て支援のような場にもなっているみたいなところもあると思います。多様な課題解決な場として子ども食堂を捉えたときに、どんな運営ができるのかとか、2ー2もすごく大事な大きなテーマではあると思います。そして、とても大事なコミカレで取り組んだ方がいいなって私が勝手に考えていることとしては、上から3つ目のコミュニティの担い手として外国籍のルーツを持つ方々がいかに地域の中で活躍できるという、これ、みんな地域の人たちもどうしたらいいのかわからなくて、手をこまねいているところであるため、そういうところでちょっとエッジを立てて2ー2、例えばそういうコミュニティの担い手としていくためにどんな誘い方があるのかとか、どんな地域の運営の仕方があるのかみたいな、ちょっと具体的にこんな感じの、新たな視点での皆さんからの講座提案を含めて待っていますというようにしていくのも1つなのかなと思いました。

#### **伊藤座長**

まだまだ出てきそうな雰囲気ではあるのですが、時間ですので会としては終了させていただきます。

以上